

大阪帝塚山 RC 創立記念例会・懇親会を終えて

大阪帝塚山RC会長 西尾 良一

7月6日に大阪南港のホテルハイアットリージェンシー大阪にて、大阪阿倍野RC、大阪住之江RC、大阪住吉RC、3クラブ合併による新生大阪帝塚山RCの創立記念例会と懇親会が盛大に執り行われました事を心から喜んでおります。

ご出席いただきました、RI理事の近藤雅臣様、RI第2660地区の岡部泰鑑ガバナー、ガバナーエレクト、パストガバナー、ガバナー補佐、IM8組の会長、幹事様や多数のご来賓のご臨席を賜り誠に有難うございました。中でも東日本大震災で被災された岩沼RCの会長、幹事さんのご出席には頭の下がる思いがいたしました。鹿児島県の友好クラブ加治木RCからは祝電を、海外からはRI第3650地区の姉妹クラブの韓国ソウル中央RCより、丁寧な日本語の祝電と生花が届けられ、その心配りに感動いたしました。同時に多数ご出席くださいました大阪帝塚山RC会員、家族の皆様方のお陰と衷心よりお礼申し上げます。

例会の点鐘は、第2454回であると同時に大阪帝塚山RC第1回である事も感慨深いものでありました。

認証状の伝達式では、RI理事の近藤様から第2660地区の岡部ガバナーに手渡され、岡部ガバナーからさらに私に伝授され、気持ちの引き締まる思いが致しました。

新生大阪帝塚山RCは会員数58名で発足致します。阿倍野RCは32年、住之江RCは36年、住吉RCは50年のそれぞれの歴史あるクラブです。合併の話が出てから3回の協議で合併の概要が決まり、1年間は3クラブの合同例会を開くことが決定しました。合併への最初の難関は、合同例会の曜日、例会場の決定ですが、ここで発揮したのが3クラブとも強い合併する意識と譲り合いの精神でした。新クラブに対する名前、会費の決定、奉仕活動状況のすり合わせ等、諸々の



決め事を、3クラブによる会長、幹事が合併委員としてご尽力下さいました。名前に関しては、従来の3クラブの名前を継承せず新しい名前で発足する事が決定。会費は「事務所の賃料、事務員の給与、事務機のリース料等」の合理化により当然安くする。安くなった分を活動費に充足する。奉仕活動は、3クラブ共に活動してきましたが、出来る限り3クラブ、奉仕活動に協力する事を前提に取り決められました。このような過程を経て新生大阪帝塚山RCが51年目に創立されました。

ガバナーの心こもった祝辞があり、方針の中に「見直しをすすめ、新たな第一歩を」提唱され、大阪帝塚山RCはまさに第一歩を歩み始めたところです。ロータリーの綱領を守り、会員間の絆を深化させ基盤の強化と会員増強に励みます。

記念例会の閉会点鐘の後は懇親会です。部屋も懇親会場に移り雰囲気も新たに和やかに行われました。オペラ歌手の公演はお祝いの席にふさわしく考慮され、鏡割りで場の雰囲気が一気に盛り上がり、乾杯の音頭をとられた斉藤昭会員の92歳のかくしゃくとした言動に勇気づけられて、会食が始まりました。RI理事の近藤雅臣氏のご祝辞の中で、会員増強は職業奉仕を基盤とした高潔なクラブであれば、おのずと入会希望者が増えるとの示唆にとんだ挨拶に深く心を動かされました。余興としてのチアリーディングは会場狭しと、躍動するはじけるような若さが圧巻でした。お楽しみ抽選会も終え参加者全員の記念写真を撮り、宴たけなわのうちに、片山副会長の中締めの挨拶で開きになりました。末尾に板垣実行委員長はじめ実行委員の皆様方の企画運営に深くお礼申し上げます。

